

平成 22 年病害虫の発生と防除

農林水産省消費・安全局 植物防疫課

I 病害虫の発生概況

春から梅雨期にかけての降雨および少ない日照時間により、梅雨明けまでは、病害の発生が懸念され、イネいもち病、なしの黒星病、果菜類の灰色かび病、ねぎ、たまねぎのべと病等の注意報が発表された。しかし、梅雨明け後は、降水量が少なく、いちごの炭疽病の注意報が発表されたほかは、ほとんど注意報が発表されなかった。

害虫は、暖冬により果樹カメムシ類の越冬量が多く、4月から主に関東から九州にかけて注意報が発表された。また、セジロウンカの飛来が多く、7月に注意報が発表された。8月後半からは、ハスモンヨトウの注意報が多くの県から発表され、防除が呼びかけられた。

II 平成 22 年の天候経過の状況

1 冬期間（平成 21 年 12 月～平成 22 年 2 月）の天候：

1) 平均気温

冬の平均気温は、全国で高かったが、強い寒気が流れ込み気温が平年を大幅に下回った時期もあるなど気温の変動が大きかった。12月中旬と1月中旬は全国的に、12月下旬～1月上旬にかけては西日本を中心に、また2月上旬前半は北日本を中心に強い寒気が流れ込んだ影響で気温は平年を大幅に下回った。一方、1月下旬と2月上旬後半、2月下旬には南から暖かい空気が流れ込み、ほぼ全国的に季節はずれの暖かさとなった。

2) 降水量

日本海側の降雪量は、冬合計では北日本日本海側では少なく東日本日本海側と西日本日本海側では平年並だったが、寒気の影響を受けた12月中旬、1月前半、2月上旬には各地で大雪となった。特に、1月中旬には新潟県の山沿いで3メートルを超える積雪となったのをはじめ、2月上旬前半には新潟市で26年ぶりに81センチの積雪となるなど、東日本日本海側を中心に2006年冬以来の大雪となった。このほか、北海道の太平洋側でも

12月下旬、低気圧の影響により大雪となった。

3) 日照時間

寒気や低気圧の影響を受けやすかった北日本では冬の日照時間がかなり少なかった。なお、2月は東・西日本太平洋側でも低気圧の影響を受けやすかったため曇りや雪または雨の日が多く、東日本太平洋側では日照時間がかなり少なかった。

2 春期間（平成 22 年 3 月～5 月）の天候：

1) 平均気温

春の平均気温は、北日本で低く、東・西日本で平年並、沖縄・奄美で高かった。しかし、南の暖かい空気が流れ込み、気温が平年を大幅に上回った時期と北の寒気が流れ込み、気温が平年を大幅に下回った時期があるなど気温の変動が大きかった。特に、東・西日本では4月の月平均気温がかなり低くなった。また、4月17日には、顕著な低温の中、本州の南海上を低気圧が通過したため、関東甲信地方から東北地方南部にかけての広い範囲で降雪および積雪を観測した。

2) 降水量

本州付近を低気圧や前線が頻繁に通過したため、春の合計降水量は、北日本から西日本にかけてかなり多かった。

3月は、北日本から西日本にかけて、低気圧や前線の影響を受けやすく、平年に比べ曇りや雨または雪の日が多く、北日本日本海側と東・西日本では月降水量はかなり多かった。4月は、前線を伴った低気圧が日本付近を頻繁に通過し月降水量は、東日本と西日本でかなり多く、北日本で多かった。5月下旬は、北日本から西日本にかけて、低気圧の影響で曇りや雨の日が多かった。

3) 日照時間

春の合計日照時間は、北日本と東・西日本日本海側でかなり少なく、東・西日本太平洋側で少なかった。地域平均の統計を開始した1946年以降で、北日本と東日本日本海側では最も日照時間が少なかった。

3 夏期間（平成 22 年 6 月～8 月）の天候：

1) 平均気温

夏の平均気温は、北日本から西日本にかけてかなり高く、沖縄・奄美で高かった。特に北日本では平年を2℃以上上回ったところが多く、東日本でも1.5℃以上上回ったところが多かった。北日本と東日本は1946年以降

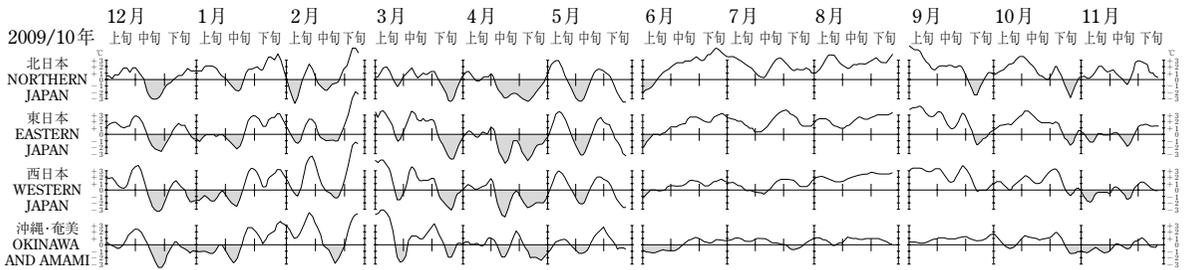


図-1 地域別平均気温年平差の経過 (5日移動平均): 気象庁報道発表資料から抜粋

で最も高かった。

特に、中旬の終わりころからは太平洋高気圧が日本付近で強まったため、東日本以西では晴れの日が多くなり、東日本を中心に日最高気温 35℃以上の猛暑日となるなど各地で厳しい暑さが続き、8月は、月平均気温は全国的にかなり高く、北・東・西日本では、1946年の地域平均の統計開始以来第1位の高温となった。

2) 降水量

夏の降水量は、北日本日本海側でかなり多く、西日本太平洋側と沖縄・奄美で多かった。北日本日本海側では平年の 140% を上回ったところがあった。一方、東日本では少なく、北日本太平洋側と西日本日本海側では平年並だった。

6月後半から梅雨前線は本州付近まで北上し、太平洋高気圧の縁を回る湿った気流の影響もあり西日本を中心に梅雨前線の活動が活発化し、7月上旬は梅雨前線が本州付近から本州の南に位置することが多く、中旬になると梅雨前線は本州付近から日本海まで北上し、太平洋高気圧の縁辺を回って南から非常に暖かく湿った空気が流れ込んだため、東・西日本では記録的な大雨となったところがあった。8月は、北日本太平洋側と東・西日本では、太平洋高気圧に覆われ晴れる日が続く降水量が少なかった。日本海側では前線や気圧の谷の影響を受け曇りや雨の日が多く、北日本日本海側と沖縄・奄美では多かった。

3) 日照時間

夏の日照時間は、東日本太平洋側でかなり多く、東日本日本海側で多かった。一方、沖縄・奄美ではかなり少なく、北日本と西日本では平年並だった。

4 秋(平成22年9月～11月)の天候:

1) 平均気温

秋の平均気温は全国的に高く、特に北日本ではかなり高かった。9月は上・中旬を中心に日本の南で太平洋高気圧の勢力が強くなり、西日本と東日本太平洋側の広い範囲

で猛暑日になる日があるなど、全国的に残暑が厳しかった。10月は、上・中旬にこの時期としては非常に暖かい空気に覆われて北・東日本を中心に気温が平年を大幅に上回った時期があるなど、9月に続いて全国的に気温が平年を上回る日が多かった。11月は東シナ海付近で偏西風が南に蛇行し、東日本以西では寒気の影響を受けやすくなって高温が解消したが、北日本では平年に比べて寒気の流入が弱く、引き続き気温が高かった。

2) 降水量

秋の降水量は、沖縄・奄美でかなり多く、東日本で多かった。一方、西日本では少なく、北日本では平年並だった。9月は北日本と東日本日本海側では、月を通して天気は数日の周期で変わり、日本海側を中心に大雨となったところもあった。10月末には台風第14号が、沖縄・奄美および近畿地方から東北太平洋側にかけて接近し、東日本太平洋側を中心に大雨となった。11月は移動性高気圧が本州付近を通過することが多かったため、西日本では降水量が少なく、特に西日本日本海側ではかなり少なかった。

3) 日照時間

天気は、北・東・西日本では太平洋高気圧が後退した9月下旬以降はおおむね数日の周期で変化したが、沖縄・奄美では湿った気流や前線および気圧の谷の影響を受けることが多かったため曇りや雨の日が多く、このため、秋の日照時間は、東日本から西日本にかけての太平洋側で多かった。一方、北日本太平洋側と沖縄・奄美では少なく、北日本から西日本にかけての日本海側では平年並だった。

III 作物別の病害虫発生状況の概要

1 水稲病害虫

病害: いもち病は、梅雨時期に好適感染日が確認され発生が懸念されたことから、7月後半の梅雨明けまでに8道県から注意報が発表され、防除の徹底が呼びかけら

れた。また、梅雨明け以降は降雨が少なく注意報の発表はなかった。

害虫：ウンカ類の飛来は、6月中旬～7月にかけてセジロウカ類の飛来が多く、主に関東から九州にかけて発生が多く認められ、7月中に3県から注意報が発表され、防除の徹底が呼びかけられた。また、トビイロウンカは、顕著な飛来は認められなかったが、主に東海から九州にかけて発生が多く認められ、7月中旬～9月中旬にかけて5県から注意報が発表され、8月上旬には1県から警報が発表され、防除の徹底が呼びかけられた。また、コブノメイガは、主に東海から九州にかけて発生が多く認められ、7月下旬に3県から注意報が発表され、防除の徹底が呼びかけられた。

斑点米カメムシ類は、7月から主に東北、関東、東海、中国および四国で発生が多く認められ、7月上旬～8月下旬にかけて10道府県から注意報が発表され、防除の徹底が呼びかけられた。

平成22年産水稻の地域別の作柄（平成22年12月8日農林水産省大臣官房統計部公表）は、北海道では、登熟はおおむね順調に推移したものの、全もみ数が少ないことから、10a当たり収量は525kg（作況指数98）となり、東北では、全もみ数はおおむね平均を下回ったものの、登熟が太平洋側でおおむね順調に推移したことから、10a当たり収量は558kg（同100）となった。

また、関東・東山および中国では、登熟期間の高温により、一部地域で白未熟粒等が多く発生したことなどから、関東・東山は10a当たり収量520kg（同97）、中国は501kg（同97）となった。

その他の地域では、登熟はおおむね平年を上回ったものの、全もみ数がおおむね平年を下回ったことから、北陸は10a当たり収量526kg（同99）、東海は495kg（同99）、近畿は500kg（同98）、四国は481kg（同100）、九州は491kg（同98）となった。

この結果、全国の10a当たり収量は522kg（同98）となった。

2 その他普通作物病害虫

麦：赤かび病は、麦類の開花期前後に降雨があり、3道県から注意報が発表され、防除の徹底が呼びかけられた。赤かび病の発生は、北海道、南東北および北陸の一部地域で多く、北九州の一部地域でやや多く確認された。

大豆：ハスモンヨトウは、7月から関東から九州にかけて発生が多く認められ、8月下旬以降に10県から注意報が発表され、防除の徹底が呼びかけられた。

3 果樹病害虫

病害：なしの黒星病は、4月から東北から九州にかけ

て発生が多く認められ、発生が多く、4月中旬～7月上旬までに4県から注意報が発表され、防除の徹底が呼びかけられた。梅雨明け以降は、降雨が少なく注意報の発表はなかった。

ぶどうのべと病は、北関東、甲信、近畿、九州の一部で多く、東北、北陸、東海の一部地域でやや多く認められ、2県から注意報が発表され、防除の徹底が呼びかけられた。

害虫：果樹カメムシ類は、越冬量が多く、4月以降に主に関東から九州にかけて発生が多く認められ、4月中旬以降に24都府県から延べ32件の注意報が発表され、防除の徹底が呼びかけられた。また、8月上旬には1県から警報が発表され、防除の徹底が呼びかけられた。

4 野菜および花き

病害：トマトをはじめとした果菜類の灰色かび病は、1月～4月下旬までに6県から、ねぎ、たまねぎのべと病は、2月中旬～6月上旬までに6県から注意報が発表され、防除の徹底が呼びかけられた。また、いちごの炭疽病は、7月下旬～8月上旬までに3県から注意報が発表され、防除の徹底が呼びかけられた。

害虫：ハスモンヨトウの発生は、7月から関東から九州にかけて発生が多く認められ、8月下旬以降に14県から注意報が発表され、防除の徹底が呼びかけられた。また、オオタバコガの注意報が、3県から発表され、防除の徹底が呼びかけられた。

本年の特殊報は、11月30日までに都道府県から81件発表されており、そのうち、ウイルス、ウイロイド病に関するものが28件であった。特に、水稻害虫であるセジロウカが媒介するウイルス病であるイネ南方黒すじ萎縮病（仮称）に係る特殊報が8県から発表された。このため、セジロウカについては、吸汁による被害だけでなく、ウイルス病を媒介することについても注意を払う必要がある。

また、野菜・花きのウイルス病に係る特殊報も発表されており、アザミウマ類またはコナジラミ類によって伝搬されるウイルス病の発表もある。今後も、虫媒伝染性ウイルス病の防除対策は、施設開口部への防虫ネットの設置、栽培終了後の蒸し込み処理等でアザミウマ類、コナジラミ類等の施設内への侵入および野外への飛び出しを防止する必要がある、さらに、健全種苗の使用、罹病株の早期抜き取り等の方法を組合せた総合的な防除対策が必要である。

表-1 病害虫発生・防除状況 (平成22年10月1日現在)

(単位:千ha, %)

病害虫名	概 評	発生面積 (注1) (前年比)	延べ防除 面積(注2) (前年比)	ハマキムシ類 ハダニ類	北東北の一部地域でやや多い 北海道, 南東北の一部地域でやや多い	1 7	(40.5) (81.9)	58 53	(37.0) (42.0)
(イネ)				(ナシ)					
稈いもち	北海道, 南九州の一部地域で多い, 南関東, 北陸, 東海, 四国の一部地域でやや多い	382 (95.1)	1,371 (98.6)	黒斑病	平年並以下	1	(91.9)	38	(95.4)
穂いもち	北海道の一部地域で多い, 南九州一部地域でやや多い	260 (88.6)	1,397 (96.0)	黒星病	関東, 中国, 九州の一部地域でやや多い~多い, 南東北, 北信, 北陸, 東海, 近畿の一部地域でやや多い	5	(92.4)	131	(98.8)
紋枯病	北東北の一部地域で多い, 東海の一部地域でやや多い~多い, 北海道, 近畿, 四国, 九州の一部でやや多い	558 (101.1)	660 (84.1)	ナシヒメシシクイ ハダニ類	関東, 北陸, 東海, 中国の一部地域でやや多い 北九州の一部で多い, 近畿, 中国の一部地域でやや多い~多い, 南関東, 北陸, 東海の一部地域でやや多い	2 7	(116.1) (132.3)	64 41	(100.8) (104.1)
白葉枯病	中国の一部地域で多い, 東海の一部地域でやや多い	11 (64.4)	93 (77.8)	カメムシ類	甲信, 東海, 近畿の一部地域で多い, 中国, 九州の一部地域でやや多い~多い, 関東, 北陸の一部地域でやや多い	2	(147.4)	27	(111.4)
ばか苗病	東北, 北九州の一部地域で多い, 北陸の一部地域でやや多い~多い, 南関東, 中国の一部地域でやや多い	16 (80.1)	884 (73.6)	アブラムシ類	南関東の一部地域でやや多い	6	(91.9)	40	(97.4)
もみ枯細菌病	中国の一部地域でやや多い	34 (190.9)	250 (89.0)	(モモ)					
縞葉枯病	関東の一部地域でやや多い~多い, 東海, 近畿, 中国の一部地域でやや多い	86 (86.2)	—	せん孔細菌病	東海の一部地域で多い, 南東北, 甲信, 北陸の一部でやや多い	3	(118.0)	41	(92.7)
稲こうじ病	北東北の一部地域で多い, 九州の一部地域でやや多い~多い, 中国の一部地域でやや多い	144 (79.7)	91 (144.7)	灰星病	平年並以下	1	(90.0)	34	(93.3)
ニカメイガ	北陸, 近畿の一部で多い, 関東の一部地域でやや多い~多い, 東海の一部でやや多い	150 (117.2)	582 (89.3)	(ぶどう)					
セジロウカ	関東, 東海, 近畿, 中国, 九州の一部地域でやや多い~多い, 北陸, 甲信, 四国の一部地域でやや多い	910 (143.3)	1,249 (87.7)	晚腐病 べと病	甲信, 東海, 中国の一部でやや多い 北関東, 甲信, 近畿, 九州の一部でやや多い~多い, 東北, 北陸, 東海の一部でやや多い	2 7	(83.1) (107.1)	42 60	(98.8) (98.2)
トビロウカ	関東, 東海, 近畿, 中国, 九州の一部地域でやや多い~多い, 北陸, 甲信, 四国の一部地域でやや多い	171 (91.4)	934 (96.1)	灰色かび病	平年並以下	1	(70.7)	29	(94.5)
ヒメトビウカ	北陸, 南九州の一部地域で多い, 関東, 四国の一部地域でやや多い~多い, 南東北, 東海, 近畿, 中国の一部地域でやや多い	733 (105.7)	1,269 (91.9)	(カキ)					
ツマグロヨコバイ	関東の一部地域でやや多い~多い, 南東北, 東海, 近畿, 中国, 四国の一部地域でやや多い	586 (116.1)	980 (94.6)	うどんこ病 落葉病類	北陸の一部地域でやや多い 四国の一部地域で多い, 南東北, 甲信, 東海の一部地域でやや多い	8 6	(106.2) (104.0)	46 42	(87.4) (86.8)
イネハモグリバエ	北陸の一部地域でやや多い	2 (194.8)	40 (46.5)	カメムシ類	東海, 近畿の一部地域で多い, 中国の一部地域でやや多い~多い, 南東北, 南九州の一部でやや多い	7	(166.9)	37	(107.3)
イネドクオシムシ	関東の一部地域でやや多い~多い, 北東北, 北陸, 東海, 近畿, 南九州の一部地域でやや多い	230 (100.2)	624 (83.2)	カクダアザミウマ	平年並以下	1	(98.1)	17	(82.0)
斑点米カメムシ類	東北, 北関東, 東海の一部地域でやや多い~多い, 甲信, 北陸, 近畿, 中国, 四国, 九州の一部地域でやや多い	558 (116.4)	1,412 (88.8)	(チャ)					
アワヨトウ	東海の一部地域でやや多い	7 (76.2)	37 (63.1)	炭疽病 チャノコカクモンハマキ	南九州の一部地域でやや多い 東海, 北九州の一部地域で多い, 南関東, 近畿の一部地域でやや多い	26 14	(86.9) (71.3)	81 62	(98.3) (123.5)
コブノメイガ	東海の一部地域で多い, 東北, 関東, 北陸, 近畿, 中国, 四国, 九州の一部地域でやや多い~多い, 甲信の一部地域でやや多い	496 (211.5)	484 (98.5)	カンザワハダニ	東海, 北九州の一部地域で多い, 近畿, 中国の一部地域でやや多い	26	(80.5)	90	(91.5)
イネミズゾウムシ	東北, 北陸の一部地域で多い, 関東, 東海, 近畿, 四国の一部地域でやや多い	631 (95.1)	815 (82.8)	(キュウリ)					
(ムギ類)				べと病	中国の一部地域でやや多い~多い, 南東北, 近畿, 南九州の一部でやや多い	4	(84.3)	31	(82.2)
さび病類	北陸, 東海の一部地域で多い, 関東, 甲信, 北九州の一部地域でやや多い	26 (81.1)	212 (105.9)	うどんこ病	北関東, 甲信, 北陸, 中国, 九州の一部地域でやや多い	4	(81.9)	29	(88.6)
うどんこ病	東海の一部地域で多い, 北東北, 北関東の一部地域でやや多い~多い, 中国の一部でやや多い	31 (90.2)	253 (99.4)	(スイカ)					
赤かび病	北海道, 南東北, 北陸の一部地域で多い, 北九州の一部地域でやや多い	59 (152.2)	478 (96.8)	つる割病	北東北, 北陸, 中国, 南九州の一部地域でやや多い	2	(84.4)	24	(87.8)
雪腐病類	北陸の一部地域で多い, 南東北の一部地域でやや多い	34 (115.4)	86 (93.0)	(ハクサカ)					
(ジャガイモ)				軟腐病 白斑病	北海道の一部地域で多い, 甲信の一部地域でやや多い 北関東の一部地域で多い	2 2	(66.6) (121.3)	19 12	(93.4) (84.3)
疫病	南関東, 中国の一部地域で多い, 九州の一部でやや多い~多い	24 (71.9)	501 (112.7)	(キャベツ)					
(ダイズ)				黒腐病 コナガ	北関東, 近畿の一部地域でやや多い 北陸, 東海, 中国の一部地域でやや多い	1 3	(34.4) (44.3)	19 32	(60.1) (58.8)
紫斑病	北九州の一部地域でやや多い	5 (39.0)	75 (79.7)	(タマネギ)					
べと病	北陸の一部地域で多い, 北関東, 東海, 四国, 九州の一部地域でやや多い	39 (81.8)	—	べと病	近畿, 中国, 北九州の一部地域でやや多い	1	(31.4)	16	(84.8)
葉燒病	九州の一部地域でやや多い~多い	16 (84.7)	2 (40.7)	(野菜共通)					
アブラムシ類	北陸, 南九州の一部地域で多い, 北関東の一部地域でやや多い	22 (64.9)	48 (65.4)	疫病	冬春トマト: 四国の一部地域で多い, 関東, 九州の一部地域でやや多い~多い, 中国の一部地域でやや多い 夏秋トマト: 南関東の一部地域で多い, 中国の一部地域でやや多い	1	(90.8)	19	(91.3)
ハスモンヨトウ	関東の一部地域で多い, 東海, 中国の一部地域でやや多い~多い, 南東北, 甲信, 近畿, 四国, 北九州の一部地域でやや多い	45 (148.6)	83 (111.1)	灰色かび病	冬春トマト: 四国の一部地域で多い, 関東, 北陸の一部でやや多い~多い, 東海, 近畿, 九州の一部でやや多い, 夏秋トマト: 東北の一部地域でやや多い, いちご: 九州の一部地域でやや多い~多い, 北陸, 東海, 近畿, 中国の一部地域でやや多い	4	(71.5)	49	(69.5)
ハダニ類	北陸, 東海の一部地域で多い	13 (123.8)	2 (348.0)	ハダニ類	冬春なす: 南関東, 四国の一部地域で多い, 夏秋なす: 南関東の一部で多い, 北陸の一部でやや多い, いちご: 関東の一部地域でやや多い~多い, 南東北, 北陸, 東海, 近畿の一部地域でやや多い, 夏秋なす: 東海の一部地域で多い, 中国の一部地域でやや多い~多い, 関東, 甲信, 近畿の一部地域でやや多い, 中国の一部地域でやや多い, いちご: 近畿の一部地域で多い, 東海の一部地域でやや多い~多い, 南東北, 北陸, 中国の一部でやや多い	8	(96.5)	50	(88.8)
カメムシ類	北陸の一部地域で多い, 南東北, 北関東, 甲信, 東海, 近畿, 中国, 四国の一部地域でやや多い	25 (78.7)	95 (79.5)	ハスモンヨトウ	夏秋なす: 東海の一部地域で多い, 中国の一部地域でやや多い~多い, 関東, 甲信, 近畿の一部地域でやや多い, 中国の一部地域でやや多い, いちご: 近畿の一部地域で多い, 東海の一部地域でやや多い~多い, 南東北, 北陸, 中国の一部でやや多い	4	(83.7)	20	(78.3)
(カンキツ類)				ヨトウガ	はくさい: 南関東, 甲信, 東海の一部地域でやや多い, キャベツ: 北陸の一部地域で多い, 南関東の一部地域でやや多い~多い, 東海, 中国の一部でやや多い	2	(56.1)	36	(62.1)
そうか病	南関東の一部地域で多い, 四国, 北九州の一部地域でやや多い	10 (131.2)	63 (83.8)	(キウ)					
黒点病	四国の一部で多い, 九州の一部地域でやや多い~多い, 南関東の一部でやや多い	47 (108.3)	176 (84.2)	白さび病	南九州の一部地域で多い, 北陸, 東海, 中国, 四国の一部地域でやや多い	0	(75.1)	5	(99.0)
かいよう病	東海, 近畿の一部地域でやや多い	14 (107.5)	51 (81.1)	アザミウマ類	東海, 南九州, 沖縄の一部地域でやや多い	0	(47.7)	6	(65.4)
ヤノカイガラシ	四国の一部でやや多い	3 (88.2)	48 (63.3)	アブラムシ類	南九州の一部地域でやや多い	0	(44.4)	4	(58.0)
ミカンダニ	中国の一部地域で多い, 南関東, 四国, 南九州の一部地域でやや多い	43 (93.0)	142 (80.3)						
カメムシ類	東海の一部地域で多い, 南九州の一部地域でやや多い~多い, 近畿, 中国, 四国の一部地域でやや多い	13 (92.7)	49 (159.8)						
(リンゴ)									
モリニア病	北東北の一部地域でやや多い	1 (252.6)	8 (12.9)						
斑点落葉病	南東北の一部地域でやや多い	6 (69.8)	114 (36.2)						
黒星病	南東北の一部地域で多い	1 (114.2)	82 (35.5)						
腐らん病	東北, 甲信の一部地域でやや多い	4 (63.5)	32 (53.1)						

注1: 標本抽出された調査定点ごとに定められた調査方法に従い病害虫発生度(無, 少, 中, 多, 甚の5段階)を算出し, 調査地区内の栽培面積を各発生程度の割合に乗じて発生程度別面積を算出。無発生を除く。発生程度別面積「少」~「甚」を合算した数値。

注2: 当該病害虫を対象として複数回防除を実施した場合や2種類以上の病害虫を対象とする混合剤による防除を実施した場合は, その回数や剤数を乗じて散布面積を算出した数値。

表-2 平成 22 年発生予察情報（警報・注意報・特殊報）の発表状況

(1) 警報・注意報（注：数字は発表年月日，斜体アンダーラインは警報）

(1月1日～12月10日)

①イネ	葉いもち	穂いもち	いもち病	斑点米 カメムシ類	その他の病害虫
北海道	7/5		4/21	7/22, 8/10	
東北	青森 岩手 宮城	7/9			4/23 イネ立枯病
	秋田 山形	7/13		8/26 8/6	
	福島	7/14		8/12	
関東	茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 山梨 長野 静岡	7/15		7/30	7/8 フタオビコヤガ
	新潟 富山 石川 福井				
北陸					
東海	岐阜 愛知 三重	6/28	7/13	7/22	9/13 トビイロウンカ
	滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山			8/26	7/14 ニカメイガ 4/15 イネ縞葉枯病, 7/16 セジロウンカ
近畿					
	鳥取 島根 岡山 広島 山徳 香川 愛媛 高知	7/15		7/21 7/15 7/7, 8/18	7/22 セジロウンカ, 7/29 コブノメイガ
中国四国					
	福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島				4/28 イネ縞葉枯病 9/1 トビイロウンカ 9/17 トビイロウンカ 7/26 コブノメイガ, セジロウンカ, トビイロウンカ, <u>8/30 トビイロウンカ</u> 7/27 コブノメイガ, 8/6 トビイロウンカ, 9/9 トビイロウンカ
沖縄					

(1月1日～12月10日)

②畑作 (イネを除く)		ハスモンヨトウ	その他
北 海 道			5/28 赤かび病 (秋まき小麦), 8/30 褐斑病 (てんさい)
東 北	青森 岩手 宮城 秋田 山形 福島		
関 東	茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 山梨 長野 静岡	9/16 (大豆, そば) 8/27 (大豆), 9/22 (大豆) 10/1 (大豆)	8/26 オオタバコガ (大豆)
北 陸	新潟 富山 石川 福井		
東 海	岐阜 愛知 三重	9/15 (大豆) 9/17 (大豆)	
近 畿	滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山		
中 国 四 国	鳥取 島根 岡山 広島 山口 徳島 香川 愛媛 高知	9/17 (大豆, そば) 9/17 (大豆) 9/13 (大豆)	3/16 うどんこ病, 網斑病 (大麦)
九 州	福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島	9/9 (大豆)	4/23 赤かび病 (小麦, 二条大麦, 裸麦) 4/9 疫病 (ばれいしょ) 4/19 赤かび病 (麦類) 3/11 疫病 (ばれいしょ)
沖 縄			

(1月1日～12月10日)

③果樹 (茶を含む)		果樹カメムシ類	その他
北海道			7/15 モモシクイガ (りんご)
東北	青森	8/6 (りんご)	
	岩手 宮城 秋田 山形 福島		6/30 せん孔細菌病 (もも), 9/8 せん孔細菌病 (もも)
関東	茨城		6/25 黒星病 (なし)
	栃木	7/27 (なし, ぶどう, もも, りんご)	7/5 黒星病 (なし)
	群馬		
	埼玉	7/21 (なし, りんご)	
	千葉	6/24 (かき, かんきつ類, キウイフルーツ, なし)	7/22 べと病 (ぶどう) 3/1 カンザワハダニ (茶)
	東京都	7/1 (果樹) 7/1 (かき, かんきつ類, キウイフルーツ, なし)	
北陸	新潟		
	富山 石川 福井		
東海	岐阜	5/26 (うめ, かき, なし, みかん, もも, りんご), 7/28 (かき, なし, もも, みかん, りんご)	
	愛知 三重	4/16 (うめ, もも), 5/26 (うめ, なし, ぶどう, もも), 7/22 (かき, かんきつ類, なし, ぶどう, もも) 5/26 (かき, なし)	7/1 かいよう病 (かんきつ類)
近畿	滋賀	5/26 (かき, なし, もも), 7/7 (果樹)	
	京都	6/3 (かき, かんきつ類, なし, もも), 8/5 (かき, かんきつ類, なし, もも)	
	大阪	5/27 (うめ, かき, もも)	
	兵庫	7/28 (かき, かんきつ類, なし, ぶどう, りんご)	
	奈良 和歌山	5/27 (うめ, なし, もも), 7/1 (かき) 5/13 (うめ, かんきつ), 7/20 (かき)	
中国四国	鳥取	6/24 (果樹), 8/5 (果樹)	6/24 黒星病 (なし)
	島根	7/7 (かき, すもも, なし)	
	岡山	5/11 (なし, もも)	
	広島	6/16 (かき, かんきつ類, なし, もも, りんご)	
	山口	6/11 (なし, もも, りんご)	
	徳島 香川 愛媛 高知	4/19 (うめ, キウイフルーツ, なし, もも, びわ) 7/22 (かき)	
九州	福岡		4/15 黒星病 (なし), 6/15 黒星病 (なし), 6/30 べと病 (ぶどう)
	佐賀 長崎	9/3 (かき, かんきつ類, なし)	
	熊本 大分 宮崎 鹿児島	8/18 (かき, かんきつ類, なし), 9/6 (かき, かんきつ類, なし)	
沖縄			

(1月1日～12月10日)

④野菜・花き		ハスモンヨトウ	その他
北海道			7/2 ネギアザミウマ (たまねぎ), 8/30 褐斑病 (てんさい)
東北	青森		
	岩手 宮城 秋田 山形 福島		6/24 黒星病 (きゅうり)
関東	茨城	9/16 (野菜類, 花き類)	6/2 べと病 (ねぎ), 8/26 オオタバコガ (野菜類, 花き類)
	栃木	9/22 (野菜類, 花き類)	1/27 灰色かび病 (トマト), 8/23 炭疽病 (いちご)
	群馬		
	埼玉	8/27 (野菜類, 花き類)	6/11 オオタバコガ (なす, スイートコーン)
	千葉 東京 神奈川	9/24 (野菜類, 花き類)	7/21 オオタバコガ (なす, トマト), 9/8 ハイマダラノメイガ (アブラナ科野菜), 9/9 オオタバコガ (野菜類, 花き類)
山梨	山梨		
	長野 静岡	10/1 (野菜類, 花き類)	
北陸	新潟	9/17 (野菜類, 花き類)	4/27 灰色かび病 (トマト)
	富山 石川 福井		
東海	岐阜	9/15 (野菜類, 花き類)	3/15 灰色かび病 (施設野菜)
	愛知 三重	9/17 (野菜類)	3/5 灰色かび病 (なす, きゅうり, いちご)
近畿	滋賀		
	京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山	9/28 (野菜類)	3/18 べと病 (たまねぎ)
中国四国	鳥取		1/29 白色疫病 (らっきょう), 4/14 べと病 (ねぎ)
	島根	9/17 (アブラナ科野菜)	4/5 べと病 (たまねぎ)
	岡山	9/17 (野菜類, 花き類)	
	広島	9/13 (野菜類, 花き類)	
	山口 徳島 香川 愛媛 高知		4/28 ニンニク春腐病 (にんにく), 8/4 炭疽病 (いちご) 2/8 白色疫病 (たまねぎ)
九州	福岡		7/28 炭疽病 (いちご)
	佐賀	9/9 (野菜類, 花き類)	3/5 べと病 (たまねぎ)
	長崎	10/1 (野菜類, 花き類)	2/12 白色疫病, べと病 (たまねぎ), 3/12 灰色かび病 (施設野菜 (果菜類)), 5/18 うどんこ病 (いちご)
	熊本 大分 宮崎		3/1 灰色かび病 (トマト), 4/30 さび病 (白ねぎ)
	鹿児島		8/5 キュウリ黄化えそ病 (きゅうり) 6/24 うどんこ病 (いちご), 9/15 キク茎えそ病 (きく)
沖縄			

(2) 特殊報

(1月1日～12月10日)

		①普通作	②果樹類 (茶を含む)	③野菜類 (花き類含む)
北海道				
東北	青森 岩手 宮城		1/27 ヒメボクトウ (なし), 11/25 ブルーベリー-赤色斑点病 (ブルーベリー)	6/21 キク茎えそ病 (きく)
	秋田 山形 福島	7/29 コムギ糸斑病 (小麦)		11/30 ユキヤナギハマキフシダニ (ユキヤナギ)
関東	茨城	10/4 クロメンガタズメ (たばこ), 11/24 アワダチソウゲンバイ (さつまいも)	9/1 ヒメボクトウ (なし, りんご)	
	栃木 群馬			9/1 アワダチソウゲンバイ (ひまわり (鉢物)) 1/19 レタス根腐病 (レタス), 2/19 ハコベハナバエ (ホウレンソウ), 8/5 トマト黄化病 (トマト)
	埼玉 千葉 東京 神奈川 山梨 長野	11/12 ミナミアオカメムシ (水稲)	7/23 ウメ輪紋ウイルスによる病害 (うめ) 9/10 ヒメボクトウ (なし)	2/9 ハコベハナバエ (ほうれんそう), 3/31 菌核病 (ブロッコリー) 11/8 ケブカノメイガ (キャベツ, ブロッコリーほかアブラナ科作物)
	静岡		7/29 リンゴ葉巻萎縮病 (りんご)	2/12 ポテトスピンドルチューバーウイルスによる病害 (グリア) 7/29 ジャガイモクロバネキノコバエ (ひめゆり), 9/15 炭疽病 (りんどう), 12/1 レタスヒゲナガアブラムシ (レタス), 12/1 レタス根腐病レース 3 (レタス), 12/6 ブルーベリー-白紋羽病(仮称)(ブルーベリー)
			10/27 ミカントゲコナジラミ (茶)	
北陸	新潟 富山 石川 福井	8/4 縮葉モザイク病 (大豆)		7/9 スイカえそ斑点病 (すいか), 9/28 トマトすすかび病 (トマト)
	岐阜			2/17 トマト萎凋病レース 3 (トマト), 10/25 ナスコナカイガラムシ (甘長とうがらし), 12/3 ホウレンソウべと病レース 8 (ほうれんそう)
東海	愛知		10/14 ミカントゲコナジラミ (サザンカ, ツバキ類), 10/19 イチジクヒトリモドキ (いちじく)	1/15 (食用ミニバラ) バラハオレタマバエ, 4/28 (いちご) アオグロヒラタゴミムシ, 10/19 キュウリホモプシ根腐病 (きゅうり)
	三重			6/2 キク茎えそ病 (きく)
近畿	滋賀		6/16 プラムボックスウイルスによる病害 (うめ)	
	京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山	11/16 ミナミアオカメムシ (水稲)	7/23 ウメ輪紋ウイルスによる病害 (うめ) 9/13 ミカントゲコナジラミ (茶) 7/23 ウメ輪紋ウイルスによる病害 (うめ)	9/15 トウガラシえそモザイク病 (仮称) (とうがらし) 1/26 エンドウ萎凋病 (えんどう)
中国四国	鳥取 岡山 広島 山口 徳島 香川 愛媛 高知	10/1 イネ南方黒すじ萎縮病 (仮称) (水稲) 10/18 イネ南方黒すじ萎縮病 (仮称) (水稲)	7/16 ミカントゲコナジラミ (茶)	8/3 黒腐菌核病 (ねぎ) 6/14 ネギ根腐病 (ねぎ) 1/19 わい化病 (きく), 7/8 キクえそ病 (きく) 11/19 べと病 (レース 8) (ほうれんそう) 6/15 レタスヒゲナガアブラムシ (レタス) 2/2 キュウリ退緑黄化病 (きゅうり), 2/5 スイカ退緑えそ病 (仮称) (すいか), 10/18 ミツユビナミハダニ (なす)
	福岡	11/11 イネ南方黒すじ萎縮病 (仮称) (水稲)		6/16 レタスヒゲナガアブラムシ (レタス), 7/9 キク茎えそ病 (きく)
	佐賀	10/18 イネ南方黒すじ萎縮病 (仮称) (水稲)		11/9 トビイロシワアリ (ブロッコリー)
	長崎	10/5 イネ南方黒すじ萎縮病 (仮称) (水稲), 11/16 トビイロシワアリ (ばれいしよ)		
	熊本	9/16 イネ南方黒すじ萎縮病 (仮称) (水稲)		1/7 葉かび病レース 2.9, 4.9.11 (トマト・ミニトマト), 1/20 スイカ退緑えそ病 (仮称) (すいか), 7/20 チャノキイロアザミウマ (トルコキキョウ)
九州	大分 宮崎	10/14 イネ南方黒すじ萎縮病 (仮称) (水稲)	3/18 ミカントゲコナジラミ (茶) 2/16 チャノキイロアザミウマ (マンゴー), 8/27 アカマルカイガラムシの一種 (マンゴー)	1/26 キク茎えそ病 (きく), 3/4 ニラえそ条斑病 (にら), 3/4 ショウガ青枯病 (ショウガ), 11/29 チビクロバネキノコバエ (いちご)
	鹿児島	9/28 イネ南方黒すじ萎縮病 (仮称) (水稲), 10/15 アフリカシロナヨトウ (イネ科牧草, さとうきび)	2/1 チャノキイロアザミウマ (マンゴー, ハウスミカン)	2/3 青枯病 (ショウガ, クルマ)
	沖縄	9/17 アフリカシロナヨトウ (イネ科牧草, さとうきび)		10/1 半身萎凋病 (おくら)

IV 病害虫防除事業

1 ウリミバエおよびミカンコミバエ

ウリミバエおよびミカンコミバエの再侵入を防止するため、奄美群島、沖縄県および小笠原諸島等において侵入警戒調査を実施するとともに、常に南方からこれら害虫の侵入する危険がある沖縄県において、ウリミバエについては不妊虫放飼により、ミカンコミバエについては誘殺剤散布により再侵入防止対策を実施した。

2 アリモドキゾウムシおよびイモゾウムシ

鹿児島県の喜界島においてはアリモドキゾウムシを対象として、沖縄県の久米島および津堅島においてはアリモドキゾウムシおよびイモゾウムシを対象として、不妊虫放飼などによる根絶防除を継続して実施している。なお、久米島のアリモドキについては、根絶防除の成果が上がっている状況を踏まえ、平成22年8月から根絶が達成されているかどうかを確認するための調査を開始した。

また、鹿児島県指宿市において、平成21年8月からアリモドキゾウムシおよびイモゾウムシを対象とした緊急防除を実施している。指宿市におけるイモゾウムシの発生は九州本土での初発生であるため、他地域への侵入に注意が必要である。

3 カンキツグリーニング病

カンキツグリーニング病の発生地域である奄美群島の一部および沖縄県のカンキツ栽培地等において、発生調査や媒介昆虫であるミカンキジラミの防除を実施した。

また、鹿児島県の喜界島において、平成19年4月から本病の根絶を目指した緊急防除を実施している。

4 アフリカマイマイ

アフリカマイマイの発生地域である奄美群島、沖縄県および小笠原諸島の被害の著しい野菜圃場などにおいて、マイマイ駆除剤散布による被害軽減防除を実施した。

5 ウメ輪紋ウイルス (プラムボックスウイルス)

東京都青梅市ほか4市町において、平成22年2月からウメ輪紋ウイルス (プラムボックスウイルス) を対象とした緊急防除を実施している。

V 農林水産航空事業

本年度の農林水産航空事業の農業関係の延べ面積は2,494千haとなる見込みである (計画値)。作物別では、水稲では52千ha、水稲以外 (果樹、畑作物等) 防除で7千ha、その他 (播種・施肥等) 2千haとなっているほか、ミバエ類の侵入防止対策として2,434千haとなっている。

無人ヘリコプターによる病害虫防除は、968千ha (速報値) で、前年を4%上回る見込みである。作物別では、水稲では840千ha、麦では63千ha、大豆その他では65千haとなっている。

VI 農薬の出荷状況

平成22農業年度 (平成21年10月1日～平成22年9月30日) における農薬の出荷は、次号で報告する。

「農薬概説 (2010)」

監修 農林水産省消費・安全局 農産安全管理課, 植物防疫課

独立行政法人 農林水産消費安全技術センター B5判 321頁

定価1,890円 (本体1,800円) 送料160円

農薬取扱者が知っておかなければならない農薬に関する法令とその解説, 基礎知識についての詳細を掲載。

第1章 作物保護と農薬

第4章 関係法令 解説

第7章 農薬のリスクと安全性評価

第2章 植物防疫行政

第5章 農薬の一般知識

第8章 農薬の安全・適正使用

第3章 農薬行政

第6章 施用技術

第9章 病害虫・雑草とその防除

資料

農薬取締法および関連する法令通知等

お問い合わせとご注文は

社団法人 日本植物防疫協会 出版情報グループ 〒114-0015 東京都北区中里2-28-10

TEL 03-5980-2183 FAX 03-5980-6753 HP <http://www.jpfa.or.jp>